

F

4

乳幼兒害因ノ統計報告

附錄 大正八、九年乳幼兒死因調查

警視廳衛生部

国立保健医療科学院蔵書



10012063

F

4

F
4

1449

六〇	四二	三七	三四	二八	二七	一一	九	頁
上	上	下	下	下	上	下	下	段
八	一七	一五	一三	七	二〇	四	四	行
平均ヨリ高ク	チフテリア	小兒期	小兒期	乳對兒總死亡半千	麻兒總死亡疹	五〇割	千	正
平均高ク	チフテリア	小兒型	小兒型	乳對兒總死亡數千	麻兒總死亡疹	〇五割	十	誤

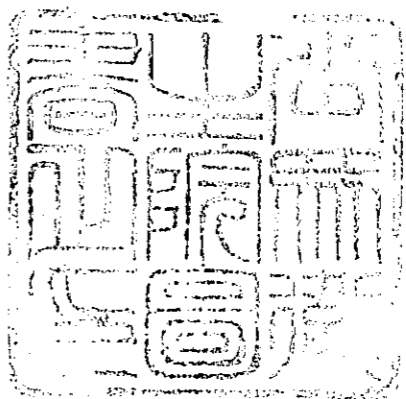
本文正誤表

表 正 誤 表

頁	行	段	正	誤
乳兒				
第一表	30 (合計)	9 (1ヶ月 女)	333	330
第六表	14 (%)	36 (再遺傳梅毒計)	17.88	47.88
幼兒				
第三表	7(七月)	24(再助 膿 搨)	(9)	(6)
第五表	31(郡部%)	10(赤痢及疫痢)	102.25	402.25
同	18(荏原郡)	32(再畸形先天性弱質)	(5) (3) (8)	(3) (5) (8)
第六表	9(九月)	37(島嶼%)	23.26	23.26
第七表	4(總死亡男)	3(日本橋區)	615	616

昭和二十一年二月
川上理一氏
贈
衛生院

五
4



7449

緒言

本報告ハ曩ニ發表シタル、管内乳幼児死亡調査報告ニ基キテ、大正十三年以降大正十五年昭和元年ニ至ル、三ケ年間ノ成績ヲ綜合的ニ觀察シタルモノナリ。

本廳ニ於テハ大正七年訓令第十五號ニ據リ、大正八年以降五ケ年繼續ノ計劃ヲ以テ、管内ニ於ケル乳兒幼兒ノ死因調査ニ著手セリ、而シテ大正八年、九年ノ調査ヲ完了シ、十年以降ノ調査中偶々關東大震災ノ厄ニヨリテ、調査材料ヲ燒失シ、タメニ當初ノ計劃ニ頓挫ヲ來セリ。

仍テ更ニ大正十三年以降三ケ年繼續調査ノ計劃ヲ樹テ調査ニ著手中、大正十三年三月内閣訓令第一號ヲ以テ、病類統計ノ改訂アリ、本廳調査亦之ニ準據セリ、從ツテ大正八年、九年ノ調査報告ト病類統計ノ一致セサルコ

ト、前後ノ調査期間ニ三ケ年ヲ中絶シタルコト、及ビ大震災ヲ一轉機トシテ、其ノ前後ニ著シキ環境ノ變化アリタルコト等ノ事由ニヨリテ、止ムナク大正十三年以降三ケ年間ノ成績ヲ綜合シ、以テ管内ニ於ケル乳幼児ノ害因ニ就キテ觀察シタルモノナリ。

尙ホ大正八年、九年ノ調査成績ヲ蒐録シテ卷尾ニ添付セリ、而シテ其ノ當時ノ統計取材ニ不備ノ點アリテ、本報告トノ對照ニ合致シ難キモ、附記シテ以テ參考ノ資料ニ供セントスルモノナリ。

昭和四年八月

警視廳衛生部

既往三ケ年間

自大正十三年至大正十五年

乳幼児害因ノ統計報告

目次

總說

第一編 乳兒篇

第一章 東京府

第一節 月齡別乳兒死亡……………三

第二節 季節別乳兒死亡……………五

第三節 病類別乳兒死亡……………八

第四節 死因ト季節トノ關係……………九

第五節 地域別ニ見タル總死亡ト出生……………一〇

第六節 地域別ニ見タル乳兒死亡……………一〇

第二章 東京市

第一節 月齡別乳兒死亡……………二

第二節 季節別乳兒死亡……………二

第三節 病類別乳兒死亡……………三

第四節 地區別ニ見タル總死亡ト出生……………三

第五節 地區別ニ見タル乳兒死亡……………一四

第三章 隣接五郡

第一節 月齡別乳兒死亡……………一六

第二節 季節別乳兒死亡……………一八

第三節 病類別乳兒死亡……………一九

第四節 郡別ニ見タル總死亡ト出生……………二〇

第五節 郡別ニ見タル乳兒死亡……………二〇

第四章 東京市ト隣接五郡ニ於ケル乳兒死亡ノ比較觀察

第一節 日齡並月齡別ニ見タル乳兒死亡ノ比較……………二三

第二節 季節別ニ見タル乳兒死亡ノ比較……………二三

第三節 病類別ニ見タル乳兒死亡ノ比較……………二四

第四節 兩地域ニ於ケル總死亡ト出生トノ比較……………二四

第五節 兩地域ニ於ケル乳兒死亡ノ比較……………二五

第五章 多摩三郡

第一節 月齡別乳兒死亡……………二五

第二節 季節別乳兒死亡……………二六

第三節	病類別乳兒死亡	三六
第四節	郡別ニ見タル總死亡ト出生	三七
第五節	郡別ニ見タル乳兒死亡	三六

第二編 幼兒篇

第一章 東京府

第一節	年齡別幼兒死亡	三三
第二節	季節別幼兒死亡	三三
第三節	病類別幼兒死亡	三四
第四節	死因ト年齡トノ關係	三五
第五節	死因ト季節トノ關係	三五
第六節	地域別ニ見タル幼兒死亡	三三

第二章 東京市

第一節	年齡別幼兒死亡	三四
第二節	季節別幼兒死亡	三四
第三節	病類別幼兒死亡	三四
第四節	地區別ニ見タル幼兒死亡	三四

第三章 隣接五郡

第一節	年齡別幼兒死亡	三五
第二節	季節別幼兒死亡	三五
第三節	病類別幼兒死亡	三五

第四節	郡別ニ見タル幼兒死亡	三六
-----	------------	----

第四章 東京市ト隣接五郡ニ於ケル幼兒死亡ノ比較觀察

第一節	年齡別ニ見タル幼兒死亡ノ比較	三六
第二節	季節別ニ見タル幼兒死亡ノ比較	三六
第三節	病類別ニ見タル幼兒死亡ノ比較	三六
第四節	兩地域ニ於ケル幼兒死亡ノ比較	三五

第五章 多摩三郡

第一節	年齡別幼兒死亡	三五
第二節	季節別幼兒死亡	三五
第三節	病類別幼兒死亡	三五
第四節	郡別ニ見タル幼兒死亡	三五

第三編 總括

第一章	乳兒	三五
第二章	幼兒	三六

既往三ヶ年間

自大正十三年
至大正十五年

乳幼兒害因ノ統計報告

警視廳衛生部

總說

本書ハ卷頭ニ記述シタルガ如ク、既往數回ニ發表シタル管内乳幼兒死亡調査報告中ヨリ、大正十三年以降昭和元年ニ亘ル三ヶ年分ヲ選ビ、之ガ統計ニ基キテ其平均成績ヲ求メ綜合的觀察ヲナシタルモノニシテ、記述ノ便宜上乳兒、幼兒ノ二篇ニ分チタリ。

東京府管内ヲ地勢其他ノ關係ニヨリテ、東京市、隣接五郡多摩三郡、八王子市、島嶼ノ五大地域ニ分テリ、而シテ各地域ノ狀況ヲ概觀スルニ、多摩三郡ハ府ノ西北隅ニ位シ、其大部ハ山地ニシテ耕植山樵ヲ主業トシ人口稀薄ノ地域ナリ、八王子市ハ南多摩郡内ニ所在シ、人口十一萬餘人ヲ有スル一都邑ニシテ、機業ヲ主トスル商業地域ナリ、島嶼ハ府ノ南方一百哩ヲ起點トシテ最遠一千餘哩ニ及ビ、太平洋上ニ點在スル島嶼群ナリ、伊豆七島及小笠原諸島ヨリ成リ、前者ハ四十餘哩ニ亘リテ十二方里ノ面積ヲ有シ、後者ハ大小九十七島總面積六方里ニ過ギズ、人口ハ兩島合シテ僅ニ三萬五千餘人ニ充タズ、氣候風土生活狀態等自ラ内地ト其趣キヲ異ニセリ、即チ上記

ノ三地域ハ特殊ノ狀況ヲ有シ、且ツ乳兒幼兒ノ死亡三地域ヲ合シテスラ、尙全管内ノ一割弱ニ達セザル少數ナルヲ以テ、各地域ノ比較觀察ヲ省略シ、各章下ノ記載ノミニ止ムベシ。東京市及隣接五郡ノ二大地域ハ管内ニ於テ特有ノ地位ヲ占メ、兩者諸種ノ近似點多ク、且ツ緊密ナル關係アルヲ見ル、特ニ大正十二年秋季ノ關東大震災ヲ一大轉機トシテ其然ルヲ見ルベシ、即チ都市ノ膨脹ハ立體平面共ニ、其度ヲ進ムルト共ニ、他面ニアリテハ保健衛生上ノ見地竝ニ經濟的關係等ヨリシテ、市内ノ人口ハ澎湃トシテ郡部ニ向ツテ流出ノ傾向ヲ增加セリ、從テ郡部ニ於ケル隣接町村ノ發展ハ著シク其勢ヲ加ヘ昔日ノ觀ナキ狀況ナリ、更ニ東京市内ノ狀態ヲ見ルニ復興事業ノ進行ニ伴ヒテ、衛生的施設亦其緒ニ就キ、全市ヲ住宅、商業、工業、混合ノ四地區ニ大別セラレ漸次整成ノ途上ニアリ、上記ノ狀況ニ鑑ミ、各編ニ於テ東京市及隣接五郡ヲ小區域ニ分チ、尙隣接郡部ヲ東京市ト對照シテ比較觀察ヲナサントスルモノナリ。

尙内閣統計局發表ノ記述編ヨリ三、四ノ成績ヲ抽出シテ比較材料ノ資料ニ供シタルモノアリ。

第一編 乳兒篇

第一章 東京府

東京府ニ於ケル三ヶ年平均ノ乳兒死亡數ハ左表ニ示スガ如ク、男一〇、六八三人、女八、六六九人、計一九、三五二人ニシテ、女一〇〇人ニ對スル男死亡ハ一二三・二一人ノ割合ナリ、乳兒死亡ヲ各地域別ニ見ルニ、其大多數ハ隣接五郡ニ於ケル五・三七割ニシテ、之ニ次グハ東京市ノ三・七割ナリ、而シテ兩地域ノ合計ハ九・一割ニシテ、殘餘ノ一・〇割弱ハ他ノ三地域ニシテ、多摩三郡〇・七六割、八王子市〇・一〇割、島嶼〇・〇七割ナリトス。

東京市 男 女 計 千分率 女百人ニ付男死亡

地域	男	女	計	千分率	女百人ニ付男死亡
東京市	10,683	8,669	19,352	100.00	100.00
隣接五郡	10,683	8,669	19,352	100.00	100.00
多摩三郡	10,683	8,669	19,352	100.00	100.00
八王子市	10,683	8,669	19,352	100.00	100.00
島嶼	10,683	8,669	19,352	100.00	100.00

第一節 月齡別乳兒死亡

乳兒死亡ヲ月齡階級ニ見ルニ、「一ヶ月」以内三・七割、「二ヶ月」以内一・三割ニシテ、コノ二ヶ月間ニ於ケル死亡合計ハ五・〇割即チ死亡總數ノ半數ヲ占メ、漸次月齡ノ進ムニ從ヒテ死亡率ノ遞減ヲ示セリ、「一ヶ月」以内死亡ヲ更ニ日齡階級ニ見ルニ、生後五日以内ノ死亡ハ、「一ヶ月」以内死亡ノ四・二割ニシテ、乳兒死亡數ノ一・六割ニ相當セル高率ヲ示シ、日齡ノ増加ト共ニ其率ノ低下セルヲ見ルベシ。

地域	男	女	計
隣接五郡	10,683	8,669	19,352
多摩三郡	10,683	8,669	19,352
八王子市	10,683	8,669	19,352
島嶼	10,683	8,669	19,352

月	死	實	數	東京市	隣接五郡	多摩三郡	八王子市	島嶼	計
一月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
二月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
三月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
四月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
五月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
六月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
七月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
八月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
九月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
十月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
十一月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
十二月	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352
合計	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352	1,352

第二節 季節別乳兒死亡

乳兒死亡ヲ四季別ニ見ルニ、冬季(十二月、一月、二月)

ニ於ケル死亡率最モ高ク、三・一割弱ニシテ、春季(三月、四月、五月)(二・七割、夏季(六月、七月、八月)(二・二割ノ順位ヲ

示シ、秋季（九月、十月、十一月）ハ死亡率最低ク、二・〇割ヲ示セルニ過ギズ。

季節	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%
春	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
夏	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
秋	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
冬	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
合	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41

前表ニ於ケル乳兒死亡ノ月別ヲ見ルニ、死亡ノ多キハ一月、二月、三月ノ三ヶ月ニシテ、何レモ一・〇割以上ノ死亡率ヲ示セリ、四月以降漸次低率ニ向ヒ、九月ニ至リテ最低率ヲ示セ

月	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%
一月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
二月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
三月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
四月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
五月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41

ルモ、十月ヨリ更ニ其率ヲ高上シ十二月ニアリテハ約一・〇割弱ニ上レルヲ見ル。

月	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%
六月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
七月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
八月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
九月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
十月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
十一月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
十二月	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41
合	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41	1,248	110.41

第三節 病類別乳兒死亡

乳兒死亡ノ病類別ニ見ルニ、次表ノ如ク殆ソド總テノ病類別ヲ有セリ、而シテ此等多種ノ病類中ニアリテ、最モ多數ナルハ、畸形先天性弱質及乳兒固有ノ疾患ニヨル、二・八割、下痢及腸炎二・一割、肺炎及氣管支肺炎一・七割等ニシテ、其他脚

氣〇七割、急性氣管支炎〇・五割等多數ナルモノニ屬セリ、麻疹、百日咳ヲ合シテ、〇・五割弱ナリトス、腦膜炎死亡ハ、〇・四割弱ヲ算スルモ本病類中ニハ各種ノ病因ヲ包括セラルベキヲ推測スルニ難カラズ、而シテ急性法定傳染病ハ其數甚ダ少數ニシテ、各種疾患ヲ合シテスラ僅ニ〇・一割ニ過ギザルヲ見ルベシ。

病類別	三ヶ年死亡平均数	地域別對一ヶ年計%
腸チフス及	0.60	0.1
チフス	0.60	0.1
合計	0.60	0.1

痘	疥	麻疹	百日咳	流行性感胃	其他ノ流行病	肺結核	腦膜及中樞神經系ノ結核	其他ノ結核	惡性腫瘍	肺膜炎及氣管支肺炎	慢性氣管支炎	急性氣管支炎	胃ノ疾患	下痢及腸炎	蟲媒突起炎及盲腸炎	腸腸及腸管閉鎖	肝硬變	腎臟炎	畸形先天及乳兒性	外因死	微毒
三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

痘	疥	麻疹	百日咳	流行性感胃	其他ノ流行病	肺結核	腦膜及中樞神經系ノ結核	其他ノ結核	惡性腫瘍	肺膜炎及氣管支肺炎	慢性氣管支炎	急性氣管支炎	胃ノ疾患	下痢及腸炎	蟲媒突起炎及盲腸炎	腸腸及腸管閉鎖	肝硬變	腎臟炎	畸形先天及乳兒性	外因死	微毒
三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%	三ヶ年死亡平均數 地域別對一ヶ年計%
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

脚	三ヶ年死亡平均数	五二五	七二五	七三三
氣	三ヶ年死亡平均数	七二五	七三三	七三三
其他ノ疾患	三ヶ年死亡平均数	三三三	三三三	三三三
不明ノ除断及不詳ノ原因	三ヶ年死亡平均数	六六六	六六六	六六六
合計	三ヶ年死亡平均数	七二五	七三三	七三三

第四節 死因ト季節トノ關係

前掲各種ノ病類中ヨリ死亡多數ノモノ竝社會的意義ヲ有スルモノ等十餘類ヲ抽出シテ、之ヲ季節別ニ觀察スルニ左表ノ如シ。

麻疹、百日咳等ニアリテハ、春夏ノ候ニ於テ多クシテ、秋季最少數ナリ、此等疾病ニ因ル死亡ハ流行ノ強弱ニ影響セラルルコト著明ナルヲ見ル。

其他ノ流行病及地方病竝結核性疾患ニアリテハ、四季ニ於テ著シキ差違ヲ認メ難シ。

腦膜炎竝下痢及腸炎ハ夏季、春季ノ候ニ於テ多數ニシテ、冬季、秋季ノ順位ヲ示セリ。

急性氣管支炎竝肺炎及氣管支肺炎ノ二類ハ共ニ冬季最多數ニシテ、何レモ四・〇割以上ノ高率ヲ示シ、春季ニ於テ尙ホ三・〇割強ヲ示セリ、而シテ夏季ニ於テハ僅ニ一・〇割内外ヲ示セルニ過ギザル少率ナリトス。

腎臟炎、畸形先天性弱質及乳兒固有ノ疾患竝微毒等ノ諸病

脚	三ヶ年死亡平均数	五二五	七二五	七三三
氣	三ヶ年死亡平均数	七二五	七三三	七三三
其他ノ疾患	三ヶ年死亡平均数	三三三	三三三	三三三
不明ノ除断及不詳ノ原因	三ヶ年死亡平均数	六六六	六六六	六六六
合計	三ヶ年死亡平均数	七二五	七三三	七三三

結核性疾患	三ヶ年平均数	二八八	二八八	二八八
脚	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
急性氣管支炎	三ヶ年平均数	二九二	二九二	二九二
肺炎及氣管支肺炎	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
下痢及腸炎	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
腎臟炎	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
畸形先天性弱質及乳兒固有ノ疾患	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
外因	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
微毒	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一
脚	三ヶ年平均数	一〇一	一〇一	一〇一

市	人口	總死亡数
東京	一,150,000	3,970
隣接五郡	1,100,000	3,970
多摩三郡	1,000,000	3,970
八王子市	1,000,000	3,970
島嶼	1,000,000	3,970
平均	1,000,000	3,970

第五節 地域別ニ見タル總死亡ト出生

東京府ニ於ケル三ヶ年平均ノ總死亡竝出生トノ關係ヲ見ルニ次表ノ如シ。

總死亡數ハ七九、二九五ニシテ、平均人口十ニ對スル總死亡率ハ一・七・九八ヲ示セリ、之ヲ地域別ニ見ルニ府平均ヨリ高率ナルハ多摩三郡一九・三三、八王子市一八・九八、隣接五郡一八・八一、ノ三地域ニシテ、東京市一六・八九、島嶼一六・六五、ノ二地域ハ府平均ヨリ低率ナリ。

出生數ハ一三三、九九三人ニシテ人口千ニ對スル率ハ三〇・三八ナリ、コノ府平均率ヨリ高キハ多摩三郡四〇・二五、島嶼三二・一六、隣接五郡三一・四六ノ三地域ニシテ、就中多摩三郡ハ他ニ比シテ嶄然一頭地ヲ拔ケリ、八王子市二九・〇七、東京市二七・七〇、ノ二市ハ府平均ヨリ低率ナリ。

上記ノ總死亡ト出生トノ關係ニ因リテ生スル人口ノ自然増加ハ多摩三郡ノ二〇・九二ヲ最高トシテ、島嶼一五・五一、隣接五郡一二・六五、ノ三地域ハ何レモ東京府平均一二・四〇ヲ超ヘ、東京市一〇・八一、八王子市一〇・〇九、ノ二市ハ共ニ府平均ヨリ低ク、多摩三郡ノ半數ニ及バザルノ低位ニアルヲ見ルベシ。

市	人口	總死亡数	出生数	出生率	人口自然増加率
東京	1,150,000	3,970	133,993	30.4	10.1
隣接五郡	1,100,000	3,970	133,993	30.4	10.1
多摩三郡	1,000,000	3,970	133,993	30.4	10.1
八王子市	1,000,000	3,970	133,993	30.4	10.1
島嶼	1,000,000	3,970	133,993	30.4	10.1
平均	1,000,000	3,970	133,993	30.4	10.1

第六節 地域別ニ見タル乳兒死亡

人口千ニ對スル乳兒死亡率ハ東京府平均四・三九ナリ。コノ平均率ヲ超過スルハ隣接五郡五・〇二、多摩三郡四・七九ノ二地域ニシテ、之ニ次グ八王子市四・三五、島嶼三・八一、東京市三・六七ノ三地域ハ何レモ府平均ヨリモ其率低シ。

市郡別	人口	乳兒死亡數	對人口千	順位
東京市	一、九三三、八〇〇	七、七〇	三・九七	五
隣接五郡	一、〇三〇、〇〇〇	一〇、三六	五・〇二	一
多摩三郡	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	四・七九	二
八王子市	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	四・三五	三
島嶼	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	三・八一	四
計平均	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	四・三九	

市郡別	出生數	乳兒死亡數	對出生百	順位
東京市	一、九三三、八〇〇	七、七〇	三・九七	五
隣接五郡	一、〇三〇、〇〇〇	一〇、三六	五・〇二	一
多摩三郡	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	四・七九	二
八王子市	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	四・三五	三
島嶼	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	三・八一	四
計平均	一、〇三〇、〇〇〇	一、一六九	四・三九	

出生ニ對スル乳兒死亡ノ關係ヲ見ルニ、出生百ニ對スル乳兒死亡率ハ東京府平均一四・四四ヲ示セリ、コノ府平均ヲ超過スルハ隣接五郡一五・九五、八王子市一四・九五ノ二地域ニシテ東京市一三・二四ヲ示シテ中位ニアリ、多摩三郡一一・九一、島嶼一一・八五ニシテ、コノ三地域ハ何レモ府平均率ヨリモ低位ニアラザルベシ。

地域別

三ヶ年平均	東京府平均	東京市	隣接五郡	多摩三郡	八王子市	島嶼
對人口千總死亡	一七九	一六九	一八八	一九三	一八六	一六五
對人口千出生	一〇六	一〇七	一〇六	一〇七	一〇七	一〇七
人口自然増加	一〇六	一〇七	一〇六	一〇七	一〇七	一〇七
乳兒死亡實數割合	一	一	一	一	一	一
對人口千乳兒死亡	四〇	三六	三九	四一	三九	三六
對總死亡千乳兒死亡	二四〇	二一三	二一三	二一三	二一三	二一三
對出生百乳兒死亡	一四〇	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三

第二章 東京市

東京市ニ於ケル三ヶ年平均乳兒死亡ハ男三、九六二人、女三、二〇一人、計七、一六三人ニシテ東京府乳兒死亡ノ三・七割ヲ占ム、以下各節ニ分チテ之ガ死亡ニ就キテ觀察ヲナサントス。

第一節 月齡別乳兒死亡

死亡數	一ヶ月以内											
	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	六ヶ月	七ヶ月	八ヶ月	九ヶ月	十ヶ月	十一月	十二月
男	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
女	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
對乳兒死亡數%	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

「一ヶ月」以内ニ於ケル死亡ヲ日齡別ニヨリテ五階級ニ分チテ見ルニ、「五日」以内ニ於ケル死亡最モ多數ニシテ「一ヶ月」以内死亡數ノ四・五割ヲ占メ、乳兒死亡數ノ一・六割ニ相當セリ、コレヨリ日齡ヲ加フルニ從ヒテ死亡率ヲ遞減スルハ前表ニ見ルガ如ク、月齡増加ト共ニ其率ノ遞減ヲ示セルト其軌ヲ一ツニセルモノナリ。

第二節 季節別乳兒死亡

季節別ヨリ乳兒死亡ノ狀況ヲ見ルニ、冬季ニ於ケル死亡率最モ高ク三・一割ナリ、コレヲ各月別ニ見レバ一月最高一・

一割ニシテ、十二月二月共ニ一・〇割弱ヲ示セリ、春季ニアリテハ二・七割ニシテ、三月一・一割弱ノ高率ヲ示セルモ、四月急ニ〇・九割弱ニ下リ、五月更ニ〇・八割弱ニ低下セリ、夏季ニアリテハ二・二割ニシテ各月ニ於ケル率ハ前月ヨリ引續キ

漸減シテ各〇・七割強ヲ示セリ、秋季ハ二〇割ニシテ四季中ニ於ケル最低率ナル季節ナリ、而シテコノ季節中ニアリテ九月ハ一ケ年中ノ最低位ニシテ僅ニ〇・六割弱ヲ示セルモ、十月ヨリ次第ニ其率ヲ高メ十一月ニ至リテハ〇・八割弱ニ高昇シ、春季五月ノ死亡率ニ稍々近キ數字ヲ示セリ、即チ東京市ニ於ケル乳児死亡ハ冬季ヲ最高トシテ春夏秋季ノ順位ニアリ、各月ニアリテハ一月最モ高クシテ九月最モ低率ヲ示セリ。

季節	三ヶ年平均乳児死亡率			乳児死亡数	千分率
	月	別	乳児死亡数		
春	一	三	七	七五	一〇五〇〇
	二	三	六	七〇	八五〇〇
	三	三	六	七〇	八五〇〇
夏	四	三	六	七〇	八五〇〇
	五	三	六	七〇	八五〇〇
	六	三	六	七〇	八五〇〇
秋	七	三	六	七〇	八五〇〇
	八	三	六	七〇	八五〇〇
	九	三	六	七〇	八五〇〇
冬	十	三	六	七〇	八五〇〇
	十一	三	六	七〇	八五〇〇
	十二	三	六	七〇	八五〇〇
計	平均	平均	平均	平均	平均

各種ノ病類中ヨリ乳児死亡ノ多數ナルモノ又ハ主要ナル死因ニ就キテ觀察センガ爲、第一章第六表中ヨリ特ニ次表ノ如ク十三類ヲ抽出セリ、第一位ヲ占ムル畸形先天性弱質及乳児固有ノ疾患二、〇〇六八、二・八割、第二位ニアルハ下痢及腸炎

第三節 病類別乳児死亡

一、三五六八、一・九割、第三位ハ肺炎及氣管支肺炎一、二四三人、一・七割強等ニシテ、コノ三病類ヲ合シテ四、六〇五人、六・四割ノ多數ヲ算セリ、此等ニ次キテ多數ナルハ脚氣五一五人、〇・七割強、急性氣管支肺炎三六〇人、〇・五割強ニシテ特ニ本症竝肺炎及氣管支肺炎トヲ合シタル急性呼吸器疾患ニヨリテ死亡スル數ハ一、六〇三人、二・二割強ノ高率ニ達シ、第二位ヲ占ムル下痢及腸炎ヲ遙ニ凌駕セリ、第六位ハ腸膜炎二七一人、〇・四割弱ナルモ本病類中ニハ恐ラク病因ヲ異ニスル各種ノ腸膜炎ヲ包含セラル、モノト推定セラルベシ、小兒期ノ疾病トセラルル百日咳二一〇人、〇・三割、麻疹一八三人、〇・二六割ニ次クハ微毒疾患ニヨル一四四人、〇・二割、法定急性傳染病一〇三人、〇・一四割ナリトス、コノ法定傳染病中ニ包括セルハ極メテ少數ノ猩紅熱、腸チフス、稍々多數キチフテリア(二人)等ヲ除ケバ大多數ハ其他ノ流行病及地方病ノ病類ニ編入セラルル赤痢及疫痢ナリトス、此他ニ外因ニヨル死亡八一人、〇・一割、結核性疾患六八八人、〇・一割等亦看過スベカラザル死因ニシテ、腎臟炎五五人、〇・〇八割亦病類中ノ數多キモノニ屬セルヲ見ルベシ。

病類	乳児死亡数	千分率
法定急性傳染病	101	一四六
麻疹	183	二五五
百日咳	210	二九三
結核性疾患	688	九三〇
急性氣管支肺炎	360	四八五
肺炎及氣管支肺炎	1603	二一五三

下痢及腸炎 一三五八 一八九五
腎臟炎 七六
畸形先天性弱質 七〇〇五
乳児固有ノ疾患 二二
外因 一〇一〇
脚氣 七九

第四節 地區別ニ見タル總死亡ト出生

前數節ニ亙リテ東京市内ニ於ケル乳児死亡ノ狀況ヲ記述セリ、更ニ各區ニ於ケル乳児死亡ノ概況ト、蓋然的ニ住宅、商業、工業、混合ノ四地區ヲ分チテ、乳児死亡ノ比較觀察ヲ試ムルニ先立チ、此等地區ニ於ケル總死亡ト出生トノ關係ヲ觀察セントス。

各區及各地區ニ於ケル三ヶ年平均總死亡竝ニ出生ノ關係ヲ觀察スルニ別表ノ如シ。

總死亡數ハ全市ニ於テ三二、九七七人ニシテ、平均人口千ニ對シ一六・八九ノ率ヲ示セリ、コノ全市平均率ヨリ高キハ本郷區二一・一二、四谷區二〇・七五、芝區一八・八三、下谷區一八・〇九、淺草區一七・四二、深川區一七・〇〇ノ六區ニシテ他ノ九區ハ何レモ市平均率ヨリモ低ク、就中日本橋區一一・一五ニシテ最モ低率ニアリ、之ヲ地區別ニ見ルニ住宅地區ト見ルベキ七區ノ平均率ハ一七・六五、商業地區ニ屬スベキ三區ノ平均率ハ一三・七一、混合地區トシテノ三區ノ平均率ハ一八・〇四、工業地區ト見ルベキ二區ノ平均率ハ一六・六二ヲ示セリ、即チ住宅地區及混合地區ハ市平均率ヨリモ高ク、商業地區及工業地區ハ其率低キヲ見ル、之ノ二地區ニ於テ低率ヲ示セルハ、同地區内ニ於ケル居住者ノ多クハ生産能率ニ富メル壯健

者ノ多數ナルニ因スルモノナルヘント推定スルヲ得ベシ。更ニ人口千ニ對スル出生率ヲ各地區別ニ觀察スルニ東京市平均二七・七〇ニ比シテ其率高キハ芝區三五・九五、小石川區三二・六八、京橋區三一・八六、深川區二九・九六、本郷區二九・三九、牛込區二九・一二、ノ六區ニシテ其他ノ九區ハ何レモ市平均率ヨリモ低ク、日本橋區二一・二一ニシテ最モ低率ナリ、地區別ニ見ルニ住宅地七區ノ平均率ハ二七・九二、商業地三區平均率二五・四六、混合地三區平均率二九・一四、工業地二區平均率二七・〇九ヲ示セリ、而シテ住宅地區、混合地區ハ市平均ヨリモ高ク、商業地區、工業地區ハ市平均ヨリモ低率ナリ、カカル狀況ヲ示セルハ後者ノ地區内ニ於ケル居住者ニハ未婚者ノ數多キニ因スルモノナランカ。

人口ニ對スル總死亡竝ニ出生ニ就テノ觀察ハ前記ノ如シ、而シテ之カ相互關係ニ因リテ來ル人口ノ自然増加率ヲ見ルニ表示セルガ如ク、東京市平均率ハ一〇・八一ナリ、之ヲ各區別ニ見ルニ市平均ヨリ高率ナルハ京橋區一七・一九、芝區一七・一二、小石川區一四・五九、深川區一二・九六、牛込區一二・八八ノ五區ニシテ、他ノ十區ハ何レモ市平均ヨリ低率ニアリ、コノ十區ノ中四谷區ハ特ニ著シク低率ニシテ五・四九ヲ示シ、最高ナル京橋區ノ三分ノ一ニ及バザル低率ナリ、之ヲ地區別ニ見ルニ住宅地七區平均一〇・二七、商業地三區平均一一・七五、混合地三區平均一一・一〇、工業地二區平均一〇・四七、ノ増加率ヲ示セリ、即チ住宅地區、工業地區ノ兩者ハ共ニ市平均率ヨリモ低ク、商業地區、混合地區ノ兩者ハ市平均率ヨリ高率ナルヲ見ルベシ。

地區別	人口	總死亡數	對人口千 總死亡率	出生數	對人口千 出生率	人口自然 增加率
麹町區	55,333	68	1.23	2,125	3.85	2.62
麻布區	52,333	62	1.19	2,125	4.03	2.84
赤坂區	52,333	62	1.19	2,125	4.03	2.84
四谷區	45,333	55	1.21	2,125	4.69	3.48
牛込區	38,333	45	1.17	2,125	5.55	4.38
小石川區	35,333	40	1.13	2,125	6.01	4.88
本郷區	35,333	40	1.13	2,125	6.01	4.88
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
商業地區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
神田區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
日本橋區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
京橋區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
混合地區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
芝區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
下谷區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
淺草區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
工業地區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
本所區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
深川區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
合計	1,234,567	12,345	10.00	45,678	37.00	27.00

第五節 地區別ニ見タル乳兒死亡
 實數ヨリ見タル各區並ニ各地區ニ於ケル乳兒死亡ハ次表ノ如ク、最高ハ淺草區ニシテ全市死亡ノ一・四割ヲ占メ、最低麹町區ノ七・六倍ニ相當スルノ多數ナルヲ見ル、之ヲ地區

別ニ見ルニ住宅地七區ノ中小石川區、本郷二區ノ比較的高率ナルヲ除ケバ他ノ五區ハ何レモ其率低ク、七區平均率ハ四三・四一ナリ、商業地三區中ニテハ日本橋區最モ低率ニシテ三區平均率ハ四八・二一ヲ示セリ、混合地三區ノ中ニテハ芝區低率ニシテ淺草區ハ全市十五區中ノ最高率ヲ示シ、コノ地區

ノ平均率ハ一〇・五・四〇ナリ、工業地區トシテ本所、深川二區ハ何レモ其率高ク、淺草區ト共ニ何レモ一〇割以上ノ高率ニシテ、三區合シテ全市ノ三・七割強ヲ算スルノ狀況ニアリ、而シテ工業地二區ノ平均率ハ一七・六九ノ高率ニシテ、住

宅地區ニ比シテ二・七倍ノ高率ナリ、以上ヲ約言スレバ住宅、商業ノ二地區ハ何レモ一〇・五割ニ達セザルノ低率ニシテ、混合、工業ノ二地區ハ共ニ一〇割強ノ高率ニアルヲ見ルベシ。

地區別	人口	總死亡數	對人口千 總死亡率	出生數	對人口千 出生率	人口自然 增加率
麹町區	55,333	68	1.23	2,125	3.85	2.62
麻布區	52,333	62	1.19	2,125	4.03	2.84
赤坂區	52,333	62	1.19	2,125	4.03	2.84
四谷區	45,333	55	1.21	2,125	4.69	3.48
牛込區	38,333	45	1.17	2,125	5.55	4.38
小石川區	35,333	40	1.13	2,125	6.01	4.88
本郷區	35,333	40	1.13	2,125	6.01	4.88
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
商業地區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
神田區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
日本橋區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
京橋區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
混合地區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
芝區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
下谷區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
淺草區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
工業地區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
本所區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
深川區	101,201	1,125	1.11	2,125	2.12	1.01
計	321,151	3,125	9.73	12,125	37.74	28.01
合計	1,234,567	12,345	10.00	45,678	37.00	27.00

人口千ニ對スル乳兒死亡ノ狀況ヲ見ルニ東京市平均率三・六七ヨリモ其率高キハ本所、深川ノ二區共ニ四・七八、淺草區四・三二、下谷區三・九九、四谷區三・七七ノ五區ニシテ、他ノ十區ハ何レモ市平均率ヨリモ低ク、最モ低率ナルハ赤坂區ノ二・三ニシテ十五區中最高率ナル本所、深川二區ノ半分ニ及バザルノ低率ナリ、更ニ地區別ニ見ルニ住宅地七區平均三・一五、商業地三區平均三・〇三ニシテ、兩地區共ニ東京市平均ヨリモ低ク、混合地三區平均三・九九、工業地二區平均四・七八ニシテ何レモ市平均ヨリ其率ノ高キヲ示セリ。

地區	區別	人口	乳兒死亡數	對人口千乳兒死亡率	順位	
住宅地區	麴町區	一〇,七四〇	三三	三・〇	(一)	
	赤坂區	一五,三三〇	四七	三・一	(二)	
	四谷區	一五,七六〇	四九	三・一	(三)	
	牛込區	一五,三三〇	四七	三・一	(四)	
	小石川區	一五,三三〇	四七	三・一	(五)	
	本郷區	一五,三三〇	四七	三・一	(六)	
	計	六九,一七〇	二一七	三・一		
	商業地區	神田區	一〇,七四〇	三三	三・〇	(七)
		日本橋區	一〇,七四〇	三三	三・〇	(八)
		京橋區	一〇,七四〇	三三	三・〇	(九)
計		三二,二二〇	九九	三・〇		
混合地區		計	三二,二二〇	九九	三・〇	(一〇)

工業地區(本所區) 一五,〇七〇 三三 四・六
 深川區 一五,〇七〇 三三 四・六
 計 平均 一五,〇七〇 三三 四・六
 合 計 平均 一五,〇七〇 三三 四・六
 次ニ總死亡千ニ對スル乳兒死亡ノ關係ヲ見ルニ、東京市平均二・一七・二ニシテ其率高キハ本所區二・九二・九二、深川區二・八一・三三、淺草區二・四七・四二、神田區二・二七・四九、京橋區二・二三・〇八、下谷區二・〇五・三ノ六區ニシテ其他ノ九區ハ何レモ市平均ヨリモ低率ヲ示シ、就中本郷區ハ一五・五六七ニシテ最高本所區ノ約半バニ近キ低率ニアルヲ見ルベシ、之ヲ各地區別ニ見ルニ住宅地七區平均一・七八・四二ニシテ市平均率ヨリ低キモ、他ノ三地區ニアリテハ何レモ市平均率ヨリモ高シ、即チ商業地三區平均二・一・三二、混合地三區平均二・二・一九、工業地二區平均二・八七・七一等ヲ示セリ。

地區	區別	總死亡數	乳兒死亡數	對總死亡千乳兒死亡率	順位	
住宅地區	麴町區	八,八〇〇	一〇	一・一三	(一)	
	赤坂區	一〇,〇〇〇	一三	一・三〇	(二)	
	四谷區	一〇,〇〇〇	一三	一・三〇	(三)	
	牛込區	一〇,〇〇〇	一三	一・三〇	(四)	
	小石川區	一〇,〇〇〇	一三	一・三〇	(五)	
	本郷區	一〇,〇〇〇	一三	一・三〇	(六)	
	計	三二,二二〇	三六	一・一三		
	商業地區	神田區	一〇,七四〇	一三	一・二一	(七)
		日本橋區	一〇,七四〇	一三	一・二一	(八)
		京橋區	一〇,七四〇	一三	一・二一	(九)
計		三二,二二〇	三六	一・一三		
混合地區		計	三二,二二〇	三六	一・一三	(一〇)

出生百ニ對スル乳兒死亡率ヲ區別ニ觀察スルニ、東京市平均率ハ一三・二四ナリ、十五區中ニテ市平均率ヨリ高キハ本所區一九・二三、淺草區一六・五七、深川區一五・九六、下谷區一五・〇一、四谷區一四・三五、神田區一四・二三、ノ六區ニシテ、他ノ九區ハ何レモ市平均ヨリ低率ナリ、コノ九區ノ中ニテ芝區九・九一、牛込區九・九三ニシテ最モ低ク最モ高率ナル本所區ニ比シテ約半數ニアリ、之ヲ地區別ニ見ルニ住宅地七區平均一・二八、商業地三區平均一・九一ニシテ共ニ東京市平均ヨリモ低率ナリ、而シテ混合地三區平均一・三・六九、工業地二區平均一・七・六五ニシテ何レモ東京市平均ヨリモ高率ヲ示シ、特ニ工業地區ニ於テ著シキヲ示セリ。

地區	區別	出生數	乳兒死亡數	對出生百乳兒死亡率	順位	
住宅地區	麴町區	一,七七一	一〇	〇・五八	(一)	
	赤坂區	一,三三三	一七	一・二八	(二)	
	四谷區	一,三三三	一七	一・二八	(三)	
	牛込區	一,三三三	一七	一・二八	(四)	
	小石川區	一,三三三	一七	一・二八	(五)	
	計	五,〇〇〇	六八	一・三六		
	商業地區	神田區	一,〇七四	一三	一・二一	(六)
		日本橋區	一,〇七四	一三	一・二一	(七)
		京橋區	一,〇七四	一三	一・二一	(八)
		計	三,二二〇	三六	一・一三	
混合地區		計	三,二二〇	三六	一・一三	(九)

第四節以下ニ記述セル各種ノ項目ニ就キテ、左ニ一覽表ヲ掲ゲ以テ各地區ニ於ケル比較觀察ノ便ニ供セントス。

地區	區別	東京市平均	住宅地七區平均	商業地三區平均	混合地三區平均	工業地二區平均
三ヶ年平均率	對人口千總死亡	一六・九	一七・五	一七・七	一八・〇	一六・六
	對人口千出生	一七・七〇	一七・九	一七・九	一七・九	一七・九
	對人口自然增加	一〇・八	一〇・七	一〇・七	一〇・七	一〇・七
	乳兒死亡實數割合	一	一	一	一	一
	對人口千乳兒死亡	三・七三	三・六	三・六	三・六	三・六
	對總死亡千乳兒死亡	二二・三	二二・六	二二・六	二二・六	二二・六
	對出生百乳兒死亡	一三・二	一三・一	一三・一	一三・一	一三・一

第三章 隣接五郡ニ於ケル三ヶ年平均ノ乳兒死亡ハ男五、七三〇人、

女四、六六六人、計一〇、三九六人ニシテ、東京府乳児死亡ノ五・四割、即チ過半数ヲ占ムル多數ナリ、各節ニ於テ之ガ觀察ヲナスベシ。

第一節 月齡別乳児死亡

乳児死亡ヲ月齡階級ニ見ルニ「一ヶ月」以内ノ死亡ハ三・

性別	乳児死亡月齡階級ニ見ルニ「一ヶ月」以内ノ死亡ハ三・											
	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	六ヶ月	七ヶ月	八ヶ月	九ヶ月	十ヶ月	計	百分率
男	1,433	1,433	966	533	333	200	133	100	66	33	3,333	100.00
女	1,433	1,433	966	533	333	200	133	100	66	33	3,333	100.00
計	2,866	2,866	1,932	1,066	666	400	266	200	132	66	6,666	100.00

「一ヶ月」以内ニ於ケル死亡ヲ更ニ日齡別ニ見ルニ、「五日」以内ノ死亡ハ四・〇割ノ多數ニシテ、乳児死亡ノ一・五割ニ當リ、「六日—十日」以内死亡ハ前期間死亡約半数ニ減ジテ二・二割、「十一日—十五日」以内死亡ハ更ニ減ジテ一・五割

死 亡 数	日 別		計	百分率
	五日以内	六日—十日		
1,433	1,433	966	2,399	100.00
1,433	1,433	966	2,399	100.00
2,866	2,866	1,932	4,798	100.00

第二節 季節別乳児死亡

乳児死亡ヲ季節別ニ見ルニ、冬季三・一割弱ニシテ、四季中最モ高キ死亡率ナリ、同季ノ月別ニアリテハ一月一・一割ニシテ十二月、二月何レモ一・〇割弱ヲ示セリ、春季ハ冬季ニ

次ギテ二・七割ヲ示シ、三月一・〇割強ノ高率ナルモ四月、五月ハ共ニ〇・八割強ニ低下スルヲ見ル、夏季ハ二・二割強第三位ニアルモ之ガ月別ニアリテハ、春季五月ニ引續キテ兩月其率ヲ遞減シ各月何レモ〇・七割前後ニアリ、秋季ハ二・〇割弱ニシテ四季中最モ下位ニアリ、同季間ノ各月中ニアリテ九

月ハ一年中ノ最モ低率ナル月ニシテ〇・六割弱ナリ、翌十月ヨリ漸次其率ヲ高メ十一月ニ至リテハ〇・七割強ヲ示シ、十二月ニアリテハ俄然一・〇割弱ニ高昇セルヲ見ル即チ各月中ノ死亡率高キハ一月ニシテ、最モ低キハ九月ナリトス。

季節	三ヶ年平均		別 別	乳児死亡数	百分率
	乳児死亡数	千分率			
春	1,433	1,433	三	1,041	100.00
夏	1,433	1,433	四	1,041	100.00
秋	1,433	1,433	五	1,041	100.00
冬	1,433	1,433	六	1,041	100.00
計	5,732	5,732	計	4,164	100.00

第三節 病類別乳児死亡

乳児死亡ノ多數ナル病類(第六表参照)中ヨリ、抽出シタル左記ノ十三類ニ就キテ見ルニ、最モ多數ナルハ畸形先天性弱質及乳児固有ノ疾患二、九一八人、二・八割ニシテ之ニ次グハ下痢及腸炎二、二七八人、二・二割、肺炎及氣管支肺炎一、六九七人、一・六割ノ三病類ニシテ六、八九三人、六・六割ヲ占ムルヲ見ルベシ、爾他ノ病類中ヨリ數ノ多キモノヲ順次ニ記ス

病 類	乳児死亡数	百分率
法定急性傳染病	918	100.00
麻疹	333	100.00
百日咳	333	100.00
結核性疾患	333	100.00
急性氣管支肺炎	1,697	100.00
肺炎及氣管支肺炎	1,697	100.00
下痢及腸炎	2,278	100.00
畸形先天性弱質及疾患	9,180	100.00
外傷	169	100.00
微菌	169	100.00
脚氣	169	100.00

レバ脚氣七二六人、〇・七割強、急性氣管支肺炎五四九人、〇・五割強、腸膜炎四〇四人、〇・四割、百日咳二三三人、〇・二割、麻疹二二一人、〇・二割、微菌一八六八人、〇・一八割、腎臟炎一一六八人、〇・一割、外因死九五五人、法定急性傳染病九四人共ニ〇・九割、結核性疾患七〇人、〇・七割ノ順位ヲ示セリ、上記病類中ヨリ急性ノ呼吸器疾患トシテ肺炎及氣管支肺炎並急性氣管支肺炎ヲ合スレバ二、二四六八人、二・二割ニシテ下痢及腸炎ニ因スル死亡ト匹敵セリ、法定急性傳染病中ノ多數ハ其他ノ流行病及地方病ニ編入セラルル赤痢及疫痢ニシテ、デフテリア(一七人)之ニ次ギ、痘疹二人ヲ算セリ、然レドモ腦膜炎死亡中ニハ若干ノ急性傳染病死亡ヲ包含スルコトナキヲ保シ難キヲ以テ、實際ニ於テハ法定急性傳染病死亡ノ數尙多少増加スルナランカ。

第四節 郡別ニ見タル總死亡ト出生

東京市ニ隣接セル五郡ニ就キテ、三ヶ年平均ノ總死亡並ニ出生關係ヲ見ルニ次表ノ如シ。

總死亡數ハ五郡合シテ三八、九七九人ニシテ平均人口千ニ對シ一八・八一ノ率ナリ、コノ五郡平均ヨリ高率ナルハ、南葛飾郡二〇・〇九、南足立郡一九・八八、北豐島郡一九・七二ノ三郡ニシテ、荏原郡一七・七一、豐多摩郡一七・六〇ノ二郡ハ五郡平均ヨリモ低率ナリ。

出生率ヲ見ルニ人口千ニ對シ、五郡平均ハ三一・四六ヲ示セ

郡別	人口	總死亡數
荏原郡	五二,九七三	九,〇六六
豐多摩郡	四六,八八八	八,二四三
北豐島郡	四四,九七九	八,七六六
南足立郡	九一,九七九	一八,一三五
南葛飾郡	四六,九七三	九,六六六
計平均	110,100	一八,九七九

第五節 郡別ニ見タル乳兒死亡

實數ヨリ見タル各郡ニ於ケル乳兒死亡ハ左表ノ如シ、即チ北豐島郡三・四割、荏原郡二・二割、南葛飾郡二・一割、豐多摩郡一・七割ノ順位ニシテ南足立郡ハ最モ下位僅ニ〇・五割ヲ算スルニ過ギザル少數ナリ、而シテ最高位ニアル北豐島郡ト最低位ニアル南足立郡トハ實ニ七倍ノ差ヲ示セルヲ見ルベシ。

郡別	男	女	計	%
荏原郡	1,155	1,092	2,247	33.3%
豐多摩郡	1,092	1,092	2,184	33.3%
北豐島郡	1,092	1,092	2,184	33.3%
南足立郡	1,092	1,092	2,184	33.3%
南葛飾郡	1,092	1,092	2,184	33.3%
計平均	1,092	1,092	2,184	33.3%

リ、コノ五郡平均率ヲ超過セルハ南足立郡三四・四二、南葛飾郡三二・九五、北豐島郡三一・六六ノ三郡ニシテ、荏原郡三〇・七四、豐多摩郡三〇・二七ノ二郡ハ共ニ五郡平均率ヨリ低キヲ見ル。
上記ノ總死亡ト出生トノ關係ニヨリテ來ル人口自然増加ノ狀況ヲ見ルニ、五郡平均一二・六五ナリ、北豐島郡八一・九四ニシテ五郡平均率ヨリ低シ、而シテ他ノ四郡ハ何レモ五郡平均ヨリ高率ヲ示ス、之ヲ高キモノヨリ記スルニ、南足立郡一四・五四、荏原郡一三・〇三、南葛飾郡一二・八六、豐多摩郡一二・六七ノ順位ニアルヲ見ル。

郡別	出生數	對人口千	人口自然增加率
荏原郡	一五,七四三	三〇・七四	三三・三
豐多摩郡	一四,一八八	三〇・七四	三三・三
北豐島郡	一四,一八八	三〇・七四	三三・三
南足立郡	一四,一八八	三〇・七四	三三・三
南葛飾郡	一四,一八八	三〇・七四	三三・三
計平均	14,188	30.74	33.3

人口千ニ對スル乳兒死亡ノ狀況ヲ見ルニ、五郡ノ平均率ハ五・〇二ナリ、五郡ノ中南葛飾郡ハ第一位ニシテ六・四一、南足立郡第二位五・七二、北豐島郡第三位五・四三等ニシテ何レモ五郡平均ヨリ高率ヲ示セリ、他ノ二郡ハ荏原郡四・五四、豐

多摩郡三・七九ノ順位ニシテ共ニ五郡平均ヨリ低率ナリ。

郡別	人口	乳兒死亡數	對人口千	順位
荏原郡	五二,九七三	二,二四三	四・二	(四)
豐多摩郡	四六,八八八	一,七七一	三・七	(五)
北豐島郡	四四,九七九	一,七七一	三・七	(五)
南足立郡	九一,九七九	一,〇九二	一・一	(一)
南葛飾郡	四六,九七三	一,〇九二	一・一	(一)
計平均	110,100	1,092	一・〇	(一)

總死亡千ニ對スル乳兒死亡ヲ見ルニ、五郡平均率ハ二・六六・七一ナリ、コレ亦對人口乳兒死亡ト其順位ノ同一ナルヲ見ル即チ第一位南葛飾郡三一・九〇三、第二位南足立郡二八・七・六七、第三位北豐島郡二七・五・三〇、第四位荏原郡二五・六・三四、第五位豐多摩郡二一・五・六一ノ順位ナリ、而シテ第一位ヨリ第三位マデノ三郡ハ五郡平均ヨリ高率ヲ示シ、第四位、第五位ノ二郡ハ共ニ低率ナルヲ見ル。

郡別	總死亡數	乳兒死亡數	對總死亡千	順位
荏原郡	九,〇六六	二,二四三	二五・〇	(四)
豐多摩郡	八,二四三	一,七七一	二一・〇	(五)
北豐島郡	八,七六六	一,七七一	一九・〇	(五)
南足立郡	一八,一三五	一,〇九二	五・九	(一)
南葛飾郡	九,六六六	一,〇九二	一一・〇	(二)
計平均	18,979	1,092	五・七	(一)

出生百ニ對スル乳兒死亡率ハ五郡平均一五・九五ヲ示セリ、

三ヶ年平均	對人口千總死亡	對人口千出生
荏原郡	一八・八一	三〇・七四
豐多摩郡	一七・六〇	三〇・七四
北豐島郡	一七・六〇	三〇・七四
南足立郡	一七・六〇	三〇・七四
南葛飾郡	一七・六〇	三〇・七四
計平均	17.60	30.74

而シテ五郡平均ニ比シ各郡ニ於ケル高位ヲ見ルニ之亦、對人口及對總死亡乳兒死亡ノ二者ト略ホ同一順位ナルモ、只第二位、第三位ノ位地ヲ替ユルヲ異ナリトス、即チ第一位南葛飾郡一九・四五、第二位北豐島郡一七・一四、第三位南足立郡一六・六二ニシテ何レモ五郡平均ヨリ其率高ク、第四位荏原郡一四・七七、第五位豐多摩郡一二・五四ノ二郡ハ共ニ五郡平均ニ比シテ低率ナリ。

郡別	出生數	乳兒死亡數	對出生百	順位
荏原郡	一五,七四三	二,二四三	一四・三	(四)
豐多摩郡	一四,一八八	一,七七一	一二・一	(五)
北豐島郡	一四,一八八	一,七七一	一二・一	(五)
南足立郡	一四,一八八	一,〇九二	七・六	(一)
南葛飾郡	一四,一八八	一,〇九二	七・六	(一)
計平均	14,188	1,092	七・六	(一)

第四節及第五節ニ於テ記述シタル表ヲ一括シテ左ニ掲ゲテ一覽ノ便ニ供スベシ、茲ニ各種ノ項目中ヨリ總死亡並ニ乳兒死亡ノ割合ヲ通觀スルニ、南葛飾郡、南足立郡、北豐島郡、荏原郡、豐多摩郡ノ順位ヲ以テシ、第三位、第四位ノ中間ニ於テ五郡ノ平均線ヲ劃シ得ベシ、而シテ前者ニアリテ其率高ク、後者ニアリテハ低率ヲ示セリ、尙人口自然増加ノ割合ハ北豐島郡ノミ五郡平均ヨリ低ク、他ノ四郡ハ何レモ五郡平均ヨリモ高キヲ見ル。

郡別	對人口千總死亡	對人口千出生
荏原郡	一八・八一	三〇・七四
豐多摩郡	一七・六〇	三〇・七四
北豐島郡	一七・六〇	三〇・七四
南足立郡	一七・六〇	三〇・七四
南葛飾郡	一七・六〇	三〇・七四
計平均	17.60	30.74

人口自然増加	二六五	二七〇
乳児死亡實數割合	一	三三・五
對人口千乳児死亡	五・〇	四・四
對總死亡千乳児死亡	三六・七	三六・四
對出生百乳児死亡	一五・五	一四・七

第四章 東京市ト隣接五郡ニ於

ケル乳児死亡ノ比較觀察

總説ニ於テ記述シタルガ如ク、大正十二年ノ大震災ヲ一轉機トシテ、東京市内ノ居住者ハ隣接郡部ニ向ツテ居ヲ移スモノ多ク、而シテ勤勞階級者ニ於テ然ルノミナラズ、中産階級ノ商工業者ニアリテモ、營業所ヲ市内ニ置キテ住居ヲ市外ニ求ムルノ傾向ヲ増加セリ、其結果隣接五郡ノ人口ハ年々其數ヲ増シテ、東京市部ト相拮抗スルノ狀況ナリ、斯ノ如キ隣接郡部ノ膨脹ハ其複雜性ヲ加ヘ、諸種ノ點ニ於テ東京市部ト共通スルモノ多キヲ見ルベシ、如上ノ理由ニヨリ兩地域ノ乳児幼兒死亡ニ就キ、諸種ノ方面ニ亘リテ比較觀察ヲ試ミントスルモノナリ。

第一節 日齡並月齡別ニ見タル乳児死亡ノ比較

乳児死亡ノ日齡並月齡別比較表ハ左ノ如シ、「一ヶ月」以内ノ死亡ハ更ニ日齡ニヨリテ五階級ニ分ツベシ、東京市ニ於ケル「一ヶ月」以内ノ死亡ハ乳児死亡數ノ三・五二割ニシテ、隣接五郡平均ノ三・七〇割ニ比シテ低率ナリ、之ヲ全國平均

二六五	二七〇	二八六
一七・五	一七・〇	一六・八
三六・七	三六・四	三六・三
一五・五	一四・七	一四・九

並東京府平均率ト比較スルニ、全國平均四・〇九割ニシテ、東京府平均三・七三割ニ比シテ高シ、五郡平均ハ府平均ト略ホ同一ナリ、コレガ内容ヲ見ルニ、「生後五日」以内ノ死亡ハ市部ハ郡部ニ比シテ高キモ、他ノ日齡階級ハ何レモ郡部ニ於テ其率高シ、而シテ東京市ニ於ケル「生後五日」以内ノ死亡率ハ、全國並東京府平均率ト稍々同ジキヲ見ルベシ。月齡階級ニ於ケル乳児死亡ハ、「一ヶ月」以内死亡ハ東京市一・三〇割ニシテ、郡部一・三七割ニ比シテ低率ニシテ府平均數ト略ホ近接シ、全國平均一・二二割ニシテ最モ其率低シ、「三ヶ月」以内死亡ハ、全國平均〇・八一割ヲ示シ最モ低ク、府平均〇・八八割、東京市〇・八九割郡部〇・九割ノ順位ヲ示セリ、「四ヶ月」以内死亡ハ東京市〇・六二割、府平均〇・六三割、郡部〇・六五割ニシテ郡部ニ於テ高率ナリ、「五ヶ月」以内死亡ハ府平均〇・五二割、郡部〇・五三割、東京市〇・五四割ヲ示セリ、「六ヶ月」以内死亡ハ府平均、郡部共〇・四九割、東京市〇・五一割ヲ示セリ、即チ「五ヶ月」「六ヶ月」以内死亡ハ何レモ郡部ニ比シテ市部ニ於テ高率ナリ、四ヶ月ヨリ六ヶ月ニ至ル三ヶ月間ノ乳児死亡ヲ見ルニ、全國平均一・五三割、府平均一・六四割、東京市一・六六割、五郡平均一・六七割ヲ示シ、全國平均最モ低率ニシテ他ノ三者ハ概ネ類似ノ數

ヲ示セリ、「七ヶ月」十二ヶ月」ノ六ヶ月間ニ於ケル死亡ハ、全國平均二・三五割ニシテ最低ヲ示シ、郡部平均二・三六割、府平均二・四二割、東京市二・六三割ノ順位ニシテ、市部ニ於テ高率ナルヲ見ルベシ。以上ヲ要約スルニ生後「五日」以内ノ死亡ハ市部ハ郡部ニ比シテ其率高キモ、爾後ノ各日齡階級ニ於テハ郡部高率ナリ、總シテ生後ヨリ四ヶ月以内ノ死亡ハ市部ヨリモ郡部高率ニシテ五ヶ月以降ノ乳児死亡ハ郡部ニ比シ市部ニ於テ其率高キヲ見ル。

日齡及月齡別	自大正十三年	同上	同上	同上	同上
乳児死亡割合	至昭和十五年	三ヶ年	同上	三ヶ年	同上
生後五日以内	三ヶ年全國平均	東京府平均	東京市平均	隣接五郡平均	
六日—十日	一五・五	一五・九	一六・五	一四・七	
十一日—十五日	九・八	九・〇	九・一	八・〇	
十六日—一ヶ月	五・六	五・二	五・三	四・六	
日 不 詳	一〇・九	八・六	七・九	八・六	
一ヶ月計	四六・八	三三・五	三三・〇	三〇・四	
一ヶ月	四〇・八	三〇・四	三〇・〇	二七・〇	
二ヶ月	三三・三	二七・七	二七・七	二五・八	
三ヶ月	二八・三	二二・九	二二・九	二〇・五	
四ヶ月	二二・七	一八・九	一八・九	一六・三	
五ヶ月	一八・三	一四・六	一四・六	一二・三	
六ヶ月	一三・七	一〇・一	一〇・一	八・一	
七ヶ月—十二ヶ月	三三・八	二二・三	二二・三	一九・四	
計	一七〇〇・〇	一七〇〇・〇	一七〇〇・〇	一七〇〇・〇	

第二節 季節別ニ見タル乳児死亡ノ比較

季節別ニヨル乳児死亡ノ關係ヲ見ルニ、東京市、隣接五郡共ニ東京府平均ト差シタル相違ヲ認メズ、各季節ニ於ケル死亡率亦殆ド相近似セリ、即チ別表ノ如ク冬季最モ高率ニシテ、春季ニ亞キ、夏季第三位ニアリテ、秋季最モ低率ヲ示セリ。之ヲ月別ニ見ルニ、市部郡部共ニ十二月ヲ通ジテノ曲線ハ相並行シテ徑庭ヲ認メズ、只各月ノ率ニ多少ノ差違アルノミ、即チ兩地域何レモ最高一月ニシテ一・一割、二月一・〇割弱ニ下リ三月再び上昇シテ一・〇割強トナルモ、四月ハ〇・八割強ニ下リ以後各月ハ多少ノ高低ヲ描キツ、低下シ、九月ニ至リテ最低位〇・六割弱ニシテ各月間ノ最高最低ノ差ハ約半數ニ近シ、而シテ十月以降再び上昇ニ向ヒ、十二月ハ二月ト殆ド同率ニシテ一・〇割弱ノ高サヲ示セリ、東京府平均ノ十二月月ヲ通ジテノ曲線ハ大體ニ於テ二地域ト近似セリ、即チ一月最高ニシテ九月最低ヲ示シ、十月以降十二月ニ向ツテ上昇シ十二月ハ二月ニ近キ率ヲ示セリ、而シテ一月、二月、三月ヲ通ジテ一・〇割以上ノ高率ニアルト三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ毎月遞減シツ、アルヲ異ナリトスルノミナリ、以上ヲ要スルニ季節別ニヨル乳児死亡ハ地域的ニハ著シキ相違ヲ認メ難シ。

季節	東京府	東京市	隣接五郡	月別	東京府	東京市	隣接五郡
春	二五・〇	二五・九	二五・〇	三月	一〇・四	一〇・四	一〇・四
				四月	八・五	八・五	八・五
				五月	八・〇	八・〇	八・〇
夏	三三・五	三三・三	三三・五	六月	七・三	七・三	七・三
				七月	六・三	六・三	六・三
				八月	五・七	五・七	五・七

秋	1000-00	1000-00	1922	九月	1922	1000-00	1000-00	1000-00	1000-00
				十月	1922	1000-00	1000-00	1000-00	1000-00
				十一月	1922	1000-00	1000-00	1000-00	1000-00
				十二月	1922	1000-00	1000-00	1000-00	1000-00
冬	1000-00	1000-00	1923	一月	1923	1000-00	1000-00	1000-00	1000-00
				二月	1923	1000-00	1000-00	1000-00	1000-00
計	1000-00	1000-00	1000-00			1000-00	1000-00	1000-00	1000-00

第三節 病類別ニ見タル乳兒死亡ノ比較

乳兒死亡ノ病類中ヨリ抽出シタル十三病類ニ就キテ比較スルニ別表ノ如シ、乳兒死亡ノ最モ多數ナル、畸形先天性弱質及乳兒固有ノ疾患ハ市郡共ニ殆ト同率ニシテ府平均ヨリモ僅カニ低率ナリ、下痢及腸炎ハ市部一・八九割ニシテ郡部二・一九割、府平均二・〇五割ニ比シテ低率ナリ、之ニ反シテ市部ニ於テハ急性呼吸器系ノ疾患（急性氣管支炎、肺炎及氣管支肺炎合計）二・二四割、小兒期ノ疾患ナル麻疹及百日咳ヲ合シテ〇・五七割、急性法定傳染病〇・一五割、結核性疾患〇・一〇割外因死〇・一一割、微毒〇・二〇割等ヲ示シ、郡部ニ於ケル急性呼吸器系疾患二・一六割、小兒期ノ疾患合計〇・四三割、急性法定傳染病〇・〇九割、結核性疾患〇・〇七割、外因死〇・〇九割、微毒〇・一八割等ニ比シテ市部其率高シ、府平均率ハ何レモ市部ト郡部ノ中間ニ位セリ、腎臟炎ハ郡部最モ高クシテ府平均之ニ次ギ市部最モ低シ、脚氣ハ府平均〇・六七割ニシテ最モ低ク、市部ハ〇・七二割ニシテ中位ニアリ、郡部〇・七三割ヲ示セリ、最後ニ於テ腦膜炎死亡ヲ見ルニ府平均〇・三九割強、郡部〇・三九割弱、市部〇・三八割ニシテ三者殆ト相同ジ

キモ、本病類中ニハ下痢及腸炎、脚氣、鉛中毒其他諸種ノ疾患ニ起因スル所謂腦膜炎症狀ヲ包括セラル、モノト推定セラレ眞正ノ腦膜炎ニ因ルモノハ、實際ニ於テ其數少ナルベシ。

病類	東京府千分率	東京市千分率	隣接五郡千分率
急性法定傳染病	二・二六	一・四六	九・〇五
麻疹	三・四四	三・五五	一〇・五〇
百日咳	三・四四	三・三三	三・三三
結核性疾患	七・七五	九・九〇	六・七五
肺炎	三・〇〇	三・〇〇	六・八五
急性氣管支炎	三・〇六	三・〇六	三・八二
肺炎及氣管支肺炎	三・〇六	三・〇六	三・八二
下痢及腸炎	二・〇六	一・九三	二・一六
腎臟炎	九・七	七・六	二・一六
畸形先天性弱質	三・三六	三・三六	三・八二
乳兒固有ノ疾患	三・三六	三・三六	三・八二
外因死	一・〇三	一・〇三	九・四
微毒	一・八〇	一・八〇	七・九
脚氣	七・三	七・三	七・三

第四節 兩地域ニ於ケル總死亡ト出生トノ比較

大正十三年以降三ヶ年間平均ノ人口ニ對スル總死亡並出生トノ關係ニ就キテ、東京市ト隣接五郡トヲ比較シ併シテ東京府及全國平均トヲ掲ゲテ對照觀察ヲナサントス。（次表參照）總死亡ニ就キテ見ルニ人口千ニ對シ、東京市部ハ一・六・八九ニシテ、五郡平均率一・八・八一ニ比シテ低率ナリ、東京府平均ハ一・七・九八ニシテ兩者ノ中間ニ位セリ、全國平均率ハ二

〇・二二ヲ示シ、府平均ヨリモ二・二四ノ高率ニアリ。出生率ハ人口千ニ付五郡平均三一・四六ニシテ、東京市二七・七〇ヲ示シ、四・四六ノ低率ナリ、府平均ハ三〇・三八ニシテ兩者ノ中間ニアリ、全國平均三四・四九ニシテ、府平均率ニ比シテ四・一一ノ高率ヲ示セリ。總死亡ト出生トノ關係ニヨリテ來ル人口ノ自然増加ハ全國平均一四・二四ニシテ最モ高ク、五郡平均一二・六五、東京府平均一二・四〇ノ順位ヲ示シ東京市部ハ最モ低ク一〇・八一ノ低率ニアルヲ見ルベシ。

備考

東京市	人口	總死亡數	乳兒死亡數
隣接五郡	人口	總死亡數	乳兒死亡數

第五節 兩地域ニ於ケル乳兒死亡ノ比較

人口千ニ對スル乳兒死亡率ハ隣接五郡平均五・〇二ニシテ全國平均ト同ジク其率高シ、東京府平均四・三九ニシテ中位ヲ占メ、東京市三・六七ニシテ最モ低率ナリ。總死亡千ニ對スル乳兒ノ死亡率ハ、東京市二一七・二二ニシテ最モ低ク、五郡平均二六六・七一ノ高率ニシテ、兩者ハ實ニ四九・五ノ差ヲ示セリ、府平均二四四・〇五、全國平均二四七・七八ニシテ、二者略ボ同率ニシテ市郡兩者ノ中間ニアリ。

出生百ニ對スル乳兒死亡率ハ、五郡平均一五・九五ニシテ、東京市一三・二四ニ比シテ其率高シ、府平均ハ一四・四四ニシ

テ、全國平均一四・五〇ト殆ト同ジク、之亦市郡兩者ノ中間ニアルヲ見ルベシ。

前表ヲ綜合スルニ、總死亡ト出生トノ相互關係ニアリテハ東京市部ハ隣接五郡ニ比シテ其成績良好ナラズ、之ニ反シテ人口並總死亡及出生ニ對スル乳兒死亡ノ關係ニアリテハ隣接五郡ハ東京市部ニ比シテ何レモ高率ニシテ成績概ネ不良ナルヲ見ル。

地域別	全國	東京府	東京市	隣接五郡
三ヶ年平均率				
對人口千總死亡	三〇・三	一七・九	一六・九	一八・一
對人口千出生	三〇・三	三〇・六	三〇・七	三〇・六
人口自然増加	一四・七	三・〇	一〇・八	一三・五
乳兒死亡實數割合	一	一	一	一
對人口千乳兒死亡	五・〇二	四・三九	三・六七	五・〇二
對總死亡千乳兒死亡	二四・七	二四・〇五	二一・七二	二六・七一
對出生百乳兒死亡	一四・四	一三・二四	一〇・八一	一五・五

第五章 多摩三郡

多摩三郡ニ於ケル三ヶ年平均ノ乳兒死亡數ハ男八〇八人、女六六一人、計一、四六九人ニシテ、東京府乳兒死亡ノ〇・七六割ニ過ギザル少數ナリ、以下數節ニ於テ之ガ觀察ヲナスベシ。

第一節 月齡別乳兒死亡

乳兒死亡ヲ月齡階級ニ見ルニ「一ヶ月」以内死亡ハ四・八割ノ高率ニシテ、乳兒死亡ノ約半數ニ近シ、「二ヶ月」以内死

亡ハ一・二割、「三ヶ月」以内死亡ハ前月ノ約半數〇・六九ニ下リ、月ヲ追フテ遞減シ「六ヶ月」以内死亡ハ〇・四ノ少數ナ

死亡數	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	六ヶ月	七ヶ月	計
男	七〇五	一七九	一〇一	七〇	五三	三九	二五	一、〇〇二
女	三六六	一〇七	五五	三三	二二	一五	一〇	六〇八
對乳兒死亡數%	三三・六	三三・五	二二・六	一六・八	一〇・〇	七・九	五・一	一、〇〇〇

更ニ「一ヶ月」以内死亡ヲ日齡階級ニ見ルニ、「五日」以内死亡ハ三・九割ノ多數ニシテ、乳兒死亡ノ一・九割ヲ占ム、「六日—十日」以内死亡ヨリ漸次日齡ヲ増スニ從ヒテ、其率ヲ遞

死亡數	五日以内	六日—十日	計
對一ヶ月以内死亡數%	三三・六	三三・六	一、〇〇〇
對乳兒死亡數%	一八・五	一〇・六	一、〇〇〇

第二節 季節別乳兒死亡

乳兒死亡ヲ季節別ニ見ルニ、冬季三・二〇割ノ高率ナリ、之ヲ月別ニ見レバ十二月ハ〇・〇八割ノ少率ナルモ一月、二月ハ頓ニ一・一七割ノ高率ニ上昇セルヲ見ル、春季ハ二・六一割ニシテ三月ハ前月ニ引續キテ尙一・一一割ノ高率ヲ示セルモ、四月ハ俄ニ〇・七五割ニ下降シ、五月〇・七六割ヲ示セリ、夏季二・一七割、秋季二・〇五割ヲ示セリ、而シテ夏秋二季ノ各月ニアリテハ六月ヨリ十一月ニ至ル六ヶ月間ニ於テ、七月ノ〇・七八割ヲ高位トシ、九月ノ〇・六三割ヲ低位トシテ、各月

季節	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
乳兒死亡數	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
對乳兒死亡數%	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇

季節	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
乳兒死亡數	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
對乳兒死亡數%	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇

第三節 病類別乳兒死亡

多種ノ病類中ヨリ(第一章第六表參照)抽出シタル十三病類ニ就キテ見ルニ、畸形先天性弱質及乳兒固有ノ疾患第一位ヲ占メ、三・二一割ノ多數ナリ、急性呼吸器系疾患(急性氣管支炎及肺炎及氣管支肺炎)二・三三割ニシテ第二位、下痢及腸炎、一・八四割第三位ニアリ、此等以外ノ病類ニアリテハ腦膜炎、〇・四六割、小兒期ノ疾患、(麻疹、百日咳合計)〇・三三割、法定急性傳染病及腎臟炎ノ共ニ、〇・一〇割、微毒、〇・一〇割、外因死及脚氣ノ共ニ〇・〇七割等ノ順位ニシテ、結核性疾患ハ甚ダ少數ニシテ僅カニ〇・〇五割ヲ示セルニ過ギズ。

病類	乳兒死亡數	千分率
法定急性傳染病	一五	一〇・三
百日咳	三	二・三
麻疹	三	二・三
結核性疾患	七	五・〇
脚氣	七	五・〇
微毒	七	五・〇
腎臟炎	七	五・〇
畸形先天性弱質	七	五・〇
急性氣管支炎	七	五・〇
肺炎	七	五・〇
腸炎	七	五・〇
下痢	七	五・〇

リ、而シテ「七ヶ月—十二月」ニ亘ル六ヶ月間ノ死亡ハ二・〇割ノ少數ニ過ギズ。

季節	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
乳兒死亡數	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
對乳兒死亡數%	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇

間ニ多少ノ高低ヲ描キテ十二月ノ〇・八三割ニ移行スルヲ見ル、以上ヲ要スルニ一月ヨリ三月ニ至ル三ヶ月間ハ、何レモ一・〇割以上ノ高率ナルモ四月ヨリ十二月ニ亘ル期間ハ〇・八割以下ニ下降シ昇降ノ差著シキヲ見ルベシ。

病類	乳兒死亡數	千分率
急性氣管支炎	一、〇〇〇	一〇・〇
肺炎及氣管支肺炎	一、〇〇〇	一〇・〇
下痢及腸炎	一、〇〇〇	一〇・〇
腎臟炎	一、〇〇〇	一〇・〇
畸形先天性弱質	一、〇〇〇	一〇・〇
乳兒固有疾患	一、〇〇〇	一〇・〇
外因死	一、〇〇〇	一〇・〇
脚氣	一、〇〇〇	一〇・〇
微毒	一、〇〇〇	一〇・〇
腎臟炎	一、〇〇〇	一〇・〇
急性氣管支炎	一、〇〇〇	一〇・〇
肺炎	一、〇〇〇	一〇・〇
腸炎	一、〇〇〇	一〇・〇
下痢	一、〇〇〇	一〇・〇

第四節 郡別ニ見タル總死亡ト出生

總死亡ノ三ヶ年平均數ハ五、九二四人ニシテ、人口千ニ對シ三郡平均率一九・三三ヲ示シ、東京府平均一七・九八ニ比シテ其率高シ、之ヲ郡別ニ見ルニ、南多摩郡二〇・一一、西多摩郡一九・七五ニシテ共ニ三郡平均率ヲ超過シ、北多摩郡一八・四五ニシテ三郡中最モ低率ナリ。

出生數ノ三ヶ年平均ハ一、三三六人ニシテ、人口千ニ對シ三郡平均率ハ四〇・二五ニシテ、東京府平均三〇・三八ニ比シテ甚ダ高率ニアリ、三郡中西多摩郡四一・二一ニシテ最モ高率ナリ、北多摩郡四〇・〇五、南多摩郡三九・四八ニシテ、三郡平均ヨリ低率ナルモ、府平均ニ比シテハ其率高キヲ見ル。多摩三郡ニ於ケル人口自然増加ノ狀況ヲ見ルニ、三郡平均二〇・九二ニシテ、東京府平均一二・四〇ヨリ遙ニ超過セリ、三郡ノ中南多摩郡ハ一八・五三ニシテ三郡平均ヨリ少ナキモ、北多摩郡二一・五六、西多摩郡二一・四六ニシテ何レモ三郡平均ヨリ高キヲ見ル。

郡別	人口	總死亡數
西多摩郡	三六,六九七	一八,八〇〇
南多摩郡	八四,三三九	一六,九六六
北多摩郡	一八,五七七	二,七六八
計平均	五八,五三三	五,九三四

郡別	對人口千	出生數	對人口千	人口自然
西多摩郡	一九.七五	三,八六九	四.三二	三.四六
南多摩郡	二〇.一三	三,三三六	三.九六	一.八五
北多摩郡	一八.九七	五,一四二	四.〇五	三.六六
計平均	一九.五三	三,三三六	四.〇五	三.〇三

第五節 郡別ニ見タル乳兒死亡

乳兒ノ死亡實數ヨリ見タル各郡ノ割合ハ、北多摩郡四・〇割、西多摩郡三・〇割、南多摩郡二・九割ノ比ナリ。

郡別	男	女	計	%	女百人ニ
西多摩郡	二二	三三	五五	三〇.五	二八.一
南多摩郡	二二	八九	一一一	二五.七	二五.五
北多摩郡	三六	三六	七二	一六.八	三三.六
計平均	二六	五三	七九	一七.〇	三三.三

人口千ニ對スル乳兒死亡率ハ三郡平均四・七八ナリ、コノ平均率ヨリ高キハ南多摩郡ノ五・一〇ニシテ、西多摩郡四・七五、北多摩郡四・六〇ハ共ニ三郡平均ヨリ低率ナルモ、東京府平均率四・三九ニ比シテ各郡共ニ高率ニアリ。

郡別	人口	乳兒死亡數	對人口千	順位
西多摩郡	三六,六九七	一,八八〇	五.一三	三
南多摩郡	八四,三三九	一,六九六	二.〇〇	一
北多摩郡	一八,五七七	二,七六八	一四.九〇	二
計平均	五八,五三三	一,四四二	二.四七	一

郡別	出生數	乳兒死亡數	對出生百	順位
西多摩郡	三,八六九	一,八八〇	四八.五	三
南多摩郡	三,三三六	一,六九六	五〇.八	二
北多摩郡	五,一四二	二,七六八	五三.八	一
計平均	三,三三六	一,四四二	四三.二	二

出生百ニ對スル乳兒死亡率ハ三郡平均一一・九一ニシテ東京府平均一四・四四ニ比シテ其率低シ、之ヲ各郡別ニ見ルニ南多摩郡一一・五四、西多摩郡一一・五三ニシテ二郡略ホ同ジク、共ニ三郡平均ヨリ低率ナリ。

郡別	三ヶ年平均	西多摩郡	南多摩郡	北多摩郡
對人口千總死亡	一九.五三	一九.七五	二〇.一三	一八.九七
對人口千出生	四〇.五	四二.三	六六.五	四〇.五
人口自然増加	二〇.九七	二二.六	四六.四	二一.六

乳兒死亡實數割合	對人口千乳兒死亡	對總死亡千乳兒死亡	對出生百乳兒死亡
一	四.六	三〇.五	二九.七
二	三〇.五	四七.五	五〇.八
三	二九.七	二五.五	四三.二

(第一表)

市 郡 別 年 齡 別

(三ヶ年平均)

[乳 兒]

Table with columns for age groups (5日以内, 6日-10日, 11日-15日, 18日-1ヶ月, 2ヶ月, 3ヶ月, 4ヶ月, 5ヶ月, 6ヶ月, 7ヶ月-1歳), sex (男女計), and various municipalities (東, 京, 市, 郡, 部, 八王子市, 島, 嶼, 總計). Rows include counts and percentages for each category.